

1 単元名「学校のまわりをたんけんしよう」

2 単元について

本単元は、小学校学習指導要領解説生活編の内容(3)「地域と生活」と(4)「公共物や公共施設の利用」を関連させた単元で、2つのねらいがある。1つ目は、白樺台地区での「まちたんけん」を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気づき、それらに親しみや愛着をもち、よりよく関わろうとすることである。2つ目は、公共物に関わる活動を通して、公共物のよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、正しく利用しようとするすることである。

白樺台地区は、すみれ会という婦人会が中心となって始めた花いっぱい運動によって、幼稚園、保育園、中学校や各町内会が協力して地域の美化に取り組んでいる。2学年の児童は、白樺花いっぱい運動に年4回参加している。この共通体験を地域への認識のスタートとして、個々の商店や施設について気づきを深めていく中で、地域の人々を支える仕事があることに加え、仕事以外の場でも地域を支える活動を行っている人々の思いに触れるとともに、その活動に参加している自分たちとの関わりを考え、これから地域を大切にしようとする姿に繋がっていくようにしたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

地域に繰り返しかかわっていく活動を通して、白樺台地区のよさを感じることで、地域の様々な人や場所に親しみや愛着をもち、白樺台地区が様々な人やその思いに支えられていることに気づき、これからの自分たちの生活について考えることができる。

(2) 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
ア 地域の人々や様々な場所に関心をもって関わろうとしている。	ア 相手や場に応じた行動について考え、活動の計画を立てたり、約束を決めたりしている。	ア 地域には様々な場所があり、そこで多様な人々が生活していることに気付いている。
イ 地域の人々や様々な場所に親しみや愛着をもち、繰り返し関わろうとしている。	イ 繰り返し地域と関わっていく中で、友達とよく話し合ったり、他のグループの友達の考えを聞き合ったりして、自分の活動を広げようとしている。	イ 地域や地域の公共物にはそれらを支えている人々がいることが分かっている。
ウ 地域や地域の公共物、それらを支えている人々に親しみや愛着をもち、大切にしようとしている。	ウ 親しみや愛着を持った場所や人々のことを振り返り、自分なりの方法で友達や地域の人々に知らせている。	ウ 親しみや愛着のある場所が増えたり、人々と適切に接したりすることができるようになった自分に気付いている。

4 本単元において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」

経験を基に自分の思いを膨らませ、それを実現していくことを通して、自分自身の成長に気付いていく姿

身近なものや人と自分との関わりに着目し、町探検で発見した気づきを比較・関連付け・予測を通して考えること

身近な社会と自分との関わりに着目し、これからの自分の生活について考えること

5 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり

白樺花いっぱい運動

本単元生活科「学校のまわりをたんけんしよう」

国語科「メモをもとに文章を書こう」

算数科「時刻と時間」

国語科「グループはっぴょう会をひらこう」

国語科「手紙を書いて伝えよう」

1 教師の写真提示をきっかけとして、地域の「すてき」を想起し、地域について知りたいことを話し合う。【関ア】

【個の確立】「白樺花いっぱい運動」の写真を提示することで、今までの経験を想起し、既にもっている白樺台地区への思いを表出する子供の姿に繋げていく。

【見方・考え方を高める】

・白樺台のよさに着目して対話する児童の発言から、比較や関連付けを促す教師の働きかけにより、仲間との経験の違いや未知のものがあることに気づき、探検への見通しをもつ子供の姿を引き出す。

【個の内面化】

・子供が町探検に行きたいという思いをもった段階で「けいかくカード」に、自分の見付けたい「すてき」を予想して書く場を設定することで、町探検への思いを明確にする姿を引き出す。【I】

まちたんけんに行って、白樺台のすてきを発見しよう！

2 教師の写真提示をきっかけとして、地域の「すてき」を想起し、地域について知りたいことを話し合う。【関ア】

3～6 グループごとに場所を決めて探検し、メモをもとに「たんけんカード」に気付いたことをまとめる。【関イ】

【個の確立】白樺台地区の中で、子供が探検できる範囲を教師が指定することで、同じ場所に繰り返し関わることができるようにする。まず、全員で範囲を1周する活動を行い、グループごとに探検への思いをもつ子供の姿を引き出す。「地図カード」「ものカード」「たてものカード」等の「ワークシートとipad」から選択して、記録することができるようにする。

【個の内面化】

・探検後、「地図カード」等にメモしたことから「たんけんカード」に発見したことを表現する場面を設定することで、探検を振り返る子供の姿に繋げる。【I】

7 「たんけんカード」を基に、次に行きたい場所を考え、交流する。【思イ】

【個の確立】「たんけんカード」を拡大地図に位置付けて提示し、「次に行きたい場所」を考える時間を設定することによって、自分との関わりで友達の気づきについて考えたり、次の探検について思いをもったりする子供の姿を引き出す。

【見方・考え方を高める】

・全体交流の場において、児童の発言に即して「どうしてそこに行きたいと思ったの?」「みんなもそう?」と問い返す教師の働きかけによって、探検の視点を明確にする子供の姿を引き出す。

例) ・いろいろなお店があって、いろいろな道具があったね。
・どれもお仕事道具なんだね。
・お店の人にお話を聞いてみたいな。

8～10 グループごとに場所を決めて探検し、メモをもとに「たんけんカード」に気付いたことをまとめる。【気ア】

【個の確立】探検の範囲をこれまで全員で行ったことのある公園やお店、花壇を含む範囲に限定し、同じ場所に繰り返し関わることができるようにするとともに、「人カード」「お仕事カード」等のワークシートとipadから選択して記録できるようにする。

【個の内面化】

・探検後、「地図カード」等にメモしたことから「たんけんカード」に発見したことを表現する場面を設定することで、探検を振り返る子供の姿に繋げる。【I】

【個の内面化】

・探検への視点が明確になった段階で「けいかくカード」に、行きたい場所と理由を書く場を設定することで、町探検への思いや願いを明確にする姿に繋げる。【I】

11 (本時) 「たんけんカード」を基に、次に行きたい場所を考え、交流する。【思イ】

【個の確立】「たんけんカード」を拡大地図に位置付けて提示し、「次に行きたい場所」を考える時間を設定することによって、自分との関わりで友達の気づきについて考えたり、次の探検について思いをもったりする子供の姿を引き出す。

【見方・考え方を高める】

・全体交流の場において、児童の発言を繋いだり、焦点化を促したりして共通の問いをもたせる教師の働きかけによって、探検の視点を明確にする子供の姿を引き出す。

例) ・薬局なのに、お仕事とは関係のない花の種があったよ。
・花いっぱい運動に関わっていると言っていたよ。
・幼稚園も花壇はあったけれど、関わっているのかな。
・花壇のお世話の間、お仕事はどうしているのかな。
・もっと聞きたいことや調べたいことが出てきたね。

【個の内面化】

・探検への視点が明確になった段階で「けいかくカード」に、行きたい場所と理由を書く場を設定することで、町探検への思いや願いを明確にする姿に繋げる。【I】

12～14 グループごとに場所を決めて探検し、メモをもとに「たんけんカード」に気付いたことをまとめる。【気ア】

【個の確立】探検の範囲をこれまで全員で行ったことのある公園やお店、花壇を含む範囲に限定し、同じ場所に繰り返し関わることができるようにするとともに、「インタビューカード」等のワークシートとipadから選択して記録できるようにする。

【個の内面化】

・探検後、「地図カード」等にメモしたことから「たんけんカード」に発見したことを表現する場面を設定することで、探検を振り返る子供の姿に繋げる。【I】

15～18 まちのよさを他者に伝えるための活動を行う。【関ウ】 【思ウ】 【気ウ】

7 本時について (11/18 時間目)

(1) 本時の目標

2 回目の探検についての交流を通して、友達とよく話し合ったり、他のグループの友達の考えを聞き合ったりして、自分の活動を広げようとしている。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために (個の内面化)

- ・本時では、2 回目の探検についてまとめられた「たんけんカード」を基に、次に行きたい場所について考えていく中で、児童同士の交流を促し、共通の問いから探検の視点を明確にする児童の姿を引き出す。
- ・探検への視点が明確になった段階で「けいかくカード」に、行きたい場所とその理由を書く場を設定することで、町探検への思いや願いを明確にする姿に繋げる。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 前時までの活動を想起し、本時の見通しを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の人のお話を聞くことができたよ！ ・また不思議が見つかったよ。 ・次の探検の計画を立てたいね。 		
<p>みんなのすてきを話し合っ、つぎのたんけんのけいかくを立てよう。</p>		
<p>2 気付きが位置づけられた地図や「たんけんカード」を見ながら、次の探検で行きたい場所を考え、地図に印をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店では、コーヒーを入れるところを見せてもらえたんだ。面白そうだね。 ・この前、不思議な道具を見つけたから、もう一度このお店に行きたいな。 ・薬局では、お花の種をもらったんだ！わたしも行ってみようかな。 	<p>【個の確立】</p> <p>□「たんけんカード」を拡大地図に位置付けて提示し、「次に行きたい場所」を考える時間を設定することによって、自分との関わりで友達の気付きについて考えたり、次の探検について思いをもったりする子供の姿を引き出す。</p>	<p>【観察】</p> <p>▲「次に行きたい場所」について迷っている場合は、なぜ迷っているのか子供の思いを丁寧に聞き取ったり、前時の気付きの近い児童と繋ぐ声を掛けたりする。</p>
<p>3 地図の印を見ながら、全体交流を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーヒーの入れ方を見せてもらって面白そうだったからだよ。 ・この前の探検では、お店の開いている時間がわかったから、その間お店の人がどんな風にお仕事をしているのか知りたくなったよ。 ・この道具は何に使うのか不思議に思ったから、もう一度お店の人に聞きに行きたくなったよ。 ・わたしは、薬局なのに、お花の種をもらっていて不思議に思ったよ。 ・喫茶店でももらっていたね。 ・花いっぱい運動を一緒にしてくれていたんだよ。 ・ぼくの行ったところの人も一緒にやってくれていたのかもしれないよ！聞いてみたいな。 	<p>【見方・考え方を生かす】</p> <p>□全体交流の中で児童の発言に対して「どうしてそこに行きたいと思ったの？」「同じように思った人はいる？」「みんなはどう？」と改めて自分の活動について考えさせる教師の働きかけによって、「お仕事」「人」等のこれまでの探検の視点を表出する子供の姿を引き出す。</p>	
<p>4 話し合ったことを基に、グループごとに次の探検の計画について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬局のお仕事とは関係ないはずなのに花いっぱい運動をしているのはどうしてなのか聞きたいな。 ・白樺幼稚園の先生も花いっぱい運動をしているのか聞きに行こうよ。 	<p>【見方・考え方を高める】</p> <p>□全体交流の中で児童の発言に対して、「お仕事」には関係のないものがお店にあったことに着目させ、共通の問いを持たせたり、「みんなはどう？」と改めて自分の活動について考えさせる教師の働きかけによって、地域を支える人々の働きに着目し、「お仕事」「人」等についてより深く調べようとする子供の姿を引き出す。</p>	<p>【発言】</p>
<p>5 「けいかくカード」に、次の探検で知りたいことを記入し、本時の学びや気付きを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬局のお仕事についてもっと詳しく調べたいよ。 ・どうして花いっぱい運動をしているのか、〇〇さんにインタビューしたいな。 ・白樺幼稚園の先生も花いっぱい運動をしているのか調べたいな。 	<p>【個の内面化】</p> <p>□「けいかくカード」に自分の思いを記入することで、本時の活動学びや気付きの自覚化を促す。1</p>	<p>【ワークシート】</p>